鹿児島県立甲南高等学校

進路指導室だより

平成２７年度　第２号（６月１日発行）

１　学ぶということ

先月，実家に帰る機会があった。春先のこの時期になるとある光景と臭いを思い出す。田んぼ一面に広がって咲く紅紫色のレンゲソウと耕した田畑から漂う肥料の臭いである。親元を離れるまでは，地下足袋を履いて肥料散布の手伝いをよくさせられたものだ。親戚の養鶏業者から鶏糞を買い付け，トラックに積み込む。各畑に降ろして回り，人手を借りて散布する。マスクとタオルで顔を覆いながらの作業であったが，その臭いと大変さから最も嫌いな手伝いであった。

恥ずかしながら，レンゲソウは「緑肥」といって，田んぼを管理している農家が，前年の秋ごろに，わざわざ種子をまいたものだと知ったのは，高校で生物を学習してからである。レンゲソウは，根っこの所々にある「根粒」というこぶに「根粒菌」という細菌をすまわせ，すむ所と少しの養分を与えて，その代わりに肥料としての窒素分をもらう共生関係を結んでいる。レンゲソウと同じマメ科のクローバーなども緑肥に使う植物であることも知った。

「臭い，きつい，汚い」手伝いとしか考えていなかった中学時代，「なぜ，鶏の糞なのだろう」なんて考えもしなかった。鶏糞は植物の三大栄養素である窒素，リン酸，カリが最もバランス良く含まれた「堆肥」であること，牛糞も含めた「堆肥」は育てる作物や生育期間によって，施す量や時期が異なることを知ったのは大学生になってからである。それから，この手伝いが楽しくなった。このように，本来，学ぶということ，知らなかった事を知るということは実に楽しいことなのである。

最近，授業をしていると皆さんが（例えは悪いが…）ヒナ鳥のように思えることがある。ヒナ鳥は親鳥が餌を運んでくるのを巣でひたすら待ち，餌が運ばれてくると大きな口を開けて，餌を入れてもらう。

しかし，学問（学習）は開いた口にヒナが餌を入れてもらうような気持ちでいては，何ひとつ学べるものではない。教えてもらおうという態度がすでに受動的で甘えた考えなのではないか。教えてくれる教師，先輩，親，地域，友人からむしり取り盗み取るくらいの心がけが必要で，自ら学ぶ気持ちがあれば，一本の草，一匹の虫からでも多くのことを学べると思う。

小さい頃から教えてもらう受け身の態度が習慣になっている人は，これから「訓練」して改善していこう。

「誰も教えてくれないのではない。
自分に学ぶ気持ちが足りないのだ」

２　感じて動く

先月，平成 27 年度創立記念式並びに記念講演会が行われ，甲南 33 期の砂田光紀先生（有限会社オフィスフィールドノート代表）に，「宇宙周遊一笑中（うちゅうしゅうゆういつしょうのうち）～旅路の彼方に輝くもの～」という演題で講演していただいた。

2014 年 7 月に，いちき串木野市羽島にオープンした「薩摩藩英国留学生記念館」を総合プロデュースされ，150 年前に決死の覚悟で海を渡った薩摩スチューデントの生き方や，旅をとおして自分で直に感じることの大切さをご教示いただいた。先生の説得力のある内容と薩摩スチューデントの生き方に共感し，大変有意義な時間を過ごした生徒も多かったのではないだろうか。

今回の甲南塾をはじめ，甲南高校は様々な場面で様々な方から叱咤激励の言葉や刺激をいただける機会が多い学校である。しかし，叱咤激励の言葉や刺激を投げかけられても，生徒自身がそれを受けとめて行動に活かせないのであれば（鈍感であれば），なかなか進歩することは難しい。

「チャンスを掴む」という言葉があるが，そのチャンスは至る所に転がっているものなのだろうか。どこにでもきっかけはある，転がっているという人もいる。しかし，そのきっかけ，チャンスを誰でも掴めている訳ではない。その違いは何だろうか。その違いは「向上心」を持っているかどうかではないだろうか。常に向上心を持っている人には，そのきっかけやチャンスが「見える」し，何も考えずぼんやり生活している人には「見えない」のだ。チャンスがせっかく巡ってきても，それを捉える力がなければ，これまた意味がない。上達や前進・向上を願い，しかもそのための努力や研鑽をおこたらない人だけが，チャンスを見つけ，掴むことができると思うが，みなさんはどう思うか…。

今回の講演の中で，砂田先生は「人生において，諸君は必ず失敗します。裏切られます。報われない事もあります。でも，失敗は屁でもない。乗り越えてください。それが人生の旅だから…」と話された。

自分ではどんなに努力しても，ちょっとした周囲の状況の変化などで失敗は起こりうる。しかし，失敗は教訓の宝庫だ。成功から学ぶことと同じくらい，失敗から学ぶことも多い。だからと言って，何も掴まず，ただ悔やんだり，嘆いたりしていれば，同じ失敗を繰り返す。

「失敗は成功のもと」ということわざは，何かを掴んだ人にのみあてはまる。これからも命あることに感謝し，失敗を恐れることなく，何事も向上心を持って取り組んでいこう。